

2021年卒
Vol. 6

4月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2021 学生モニター調査結果 (2020年4月発行)

2021年卒者の採用広報開始から1カ月。新型コロナウイルスの感染拡大により、少なからぬ混乱が生じている中で、就職戦線はどのように進んでいるだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、就職活動状況について調査を行った。前年同時期調査の結果とも比較しながら、現状を分析する。

1. エントリー状況

- 一人あたりのエントリー社数の平均は24.6社。前年同期調査(25.6社)より微減
- 「3月1日以降の就職活動で知った企業」の割合が年々減少(2.0割→1.8割→1.5割)
- 今後の予定社数の平均は4.6社。前年(4.5社)をやや上回る

2. 会社説明会への参加・WEBセミナーの視聴状況

- 会社説明会参加社数は平均5.8社。広報解禁から1カ月間の伸びは1.8社にとどまる
- WEBセミナー視聴者は85.8%。ライブ配信は平均6.7社、オンデマンド配信は4.8社視聴

3. 選考試験の受験状況

- ES提出社数は平均10.4社。筆記7.0社、面接3.9社。いずれも前年を上回る
- 最終面接経験者が全体の46.9%。前年同期調査(36.6%)より10ポイント以上増加

4. 4月1日現在の内定状況

- 内定率は34.7%。前年同期実績(26.4%)を8.3ポイント上回る
- 就職活動を終了したのは全体の1割(11.0%)。約9割が就職活動を継続

5. 内定を得た企業の属性

- 内定業界は「情報処理・ソフトウェア」「調査・コンサルタント」「建設・住宅・不動産」の順
- 従業員1,000人以上の大手企業からの内定が6割以上(62.2%)を占める

6. 就職活動継続学生の動向

- 現時点の志望業界1位「情報処理・ソフトウェア」、2位「情報・インターネットサービス」
- 自身の就活「順調」43.8%、「苦戦」56.2%。前年調査と比率が逆転

7. 企業の新型コロナウイルス対策による志望度への影響

- 対応を見て「志望度が上がった企業がある」11.0%、「下がった企業がある」21.0%
- 感染防止策の内容、連絡の迅速さ、在宅勤務含め働き方の柔軟性などが志望度に影響

調査概要

- 調査対象 : 2021年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
 回答者数 : 1,299人(文系男子416人、文系女子386人、理系男子352人、理系女子145人)
 調査方法 : インターネット調査法
 調査期間 : 2020年4月1日~5日
 サンプリング : キャリタス就活2021学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

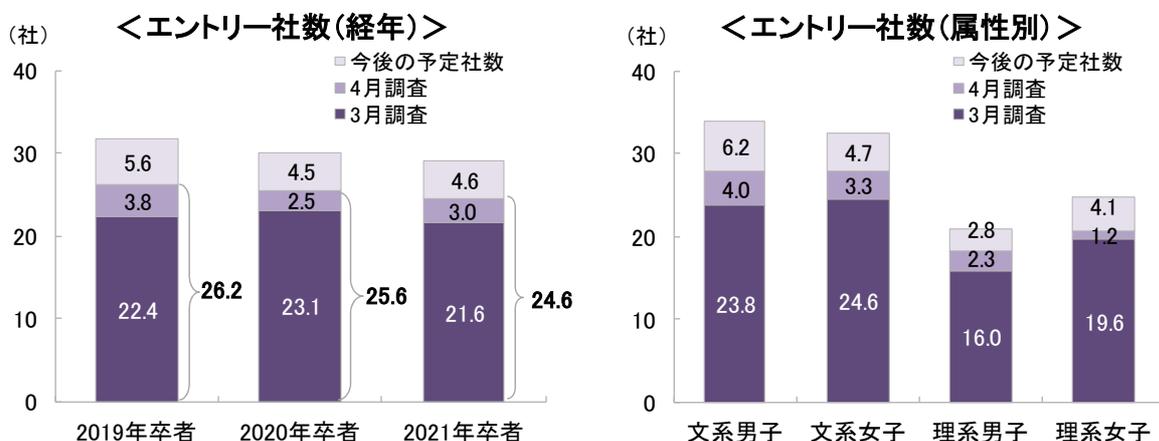
1. エントリー状況

企業の採用広報開始から1カ月が経過した。2021年卒者の就職活動はどのように進行しているだろうか。4月1日時点の活動量を見てみよう。

まず、一人あたりのエントリー社数の平均は24.6社。前年同期実績 (25.6社) をやや下回る。

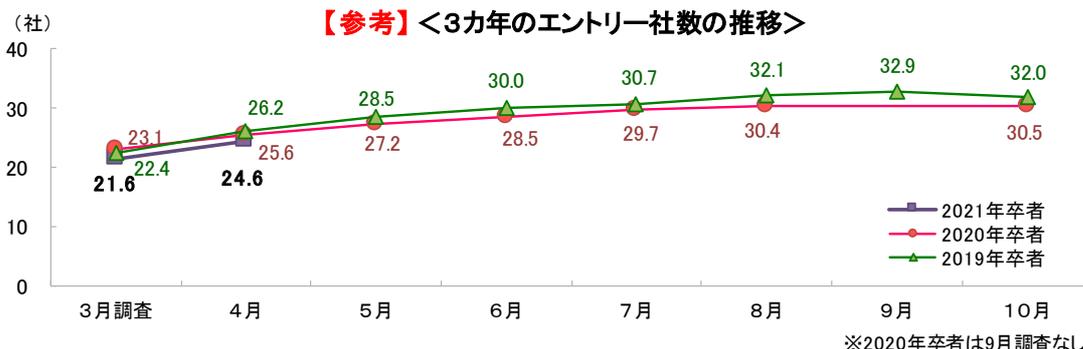
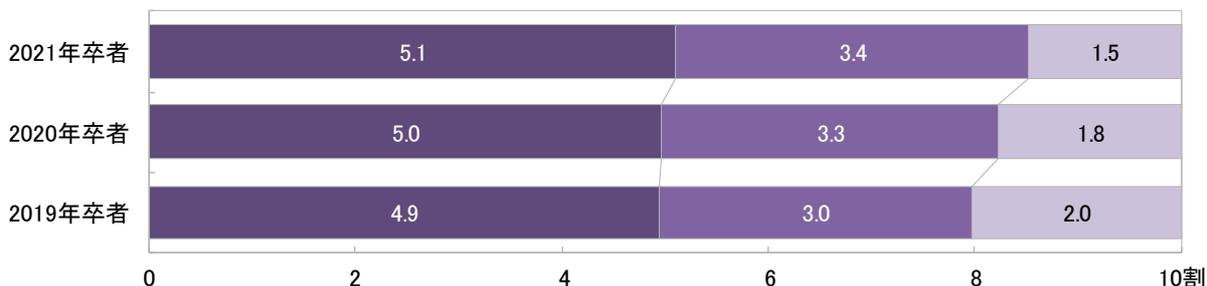
エントリーした企業について、その企業を知った時期の比率を経年で見てみると、「もともと知っていた企業」が半数を占める点は変わらないが、「3月より前のインターンシップや業界研究などで知った企業」の割合が一段と増加。その分「3月1日以降に知った企業」の割合が減少している (2.0割→1.8割→1.5割)。合同企業説明会や学内セミナーの中止が相次ぎ、新たな企業と出会う機会が減る中で、就活解禁前に知った企業を中心に活動を行う傾向が強まっているようだ。

ただ、先月調査 (21.6社) からの伸びを見ると、3.0社と前年実績 (2.5社) を上回っている。今後のエントリー予定についても、前年より多くエントリーする見込みで (4.5社→4.6社)、新型コロナウイルスの収束が見えない中で、活動範囲を広げようとする動きも感じさせる。



<エントリーした企業を知った時期(各年4月時点)>

■もともと知っていた企業 ■3月より前のインターンシップや業界研究などで知った企業 ■3月1日以降の就職活動で知った企業

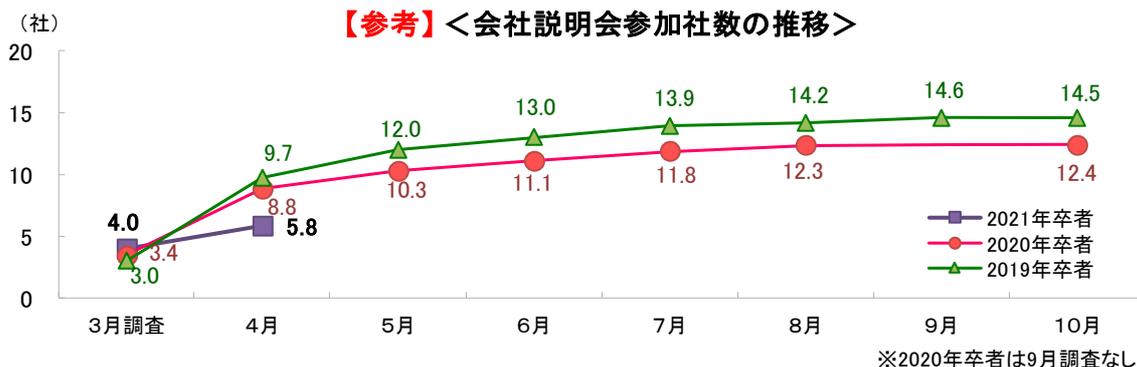
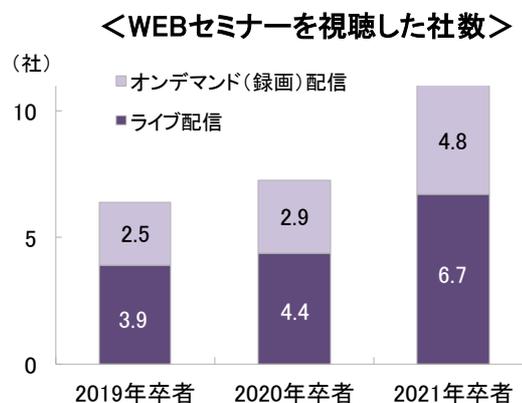
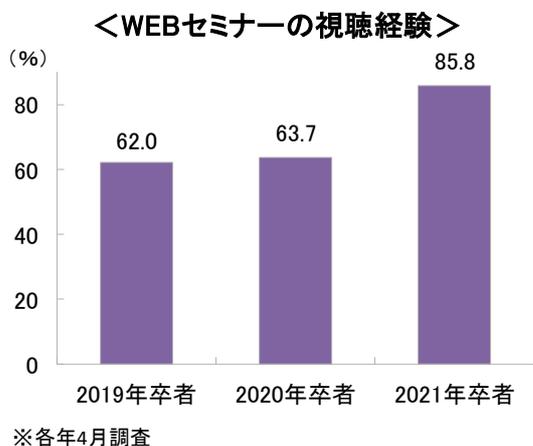
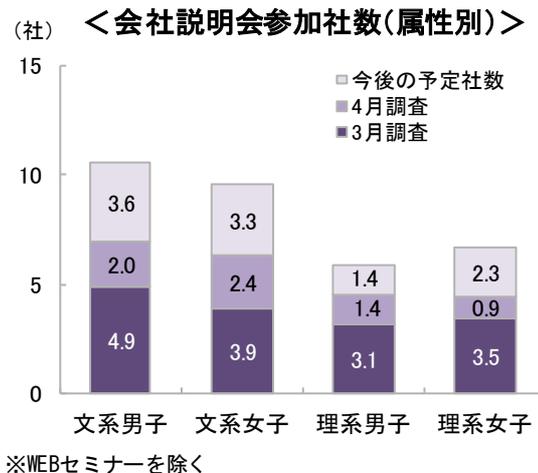
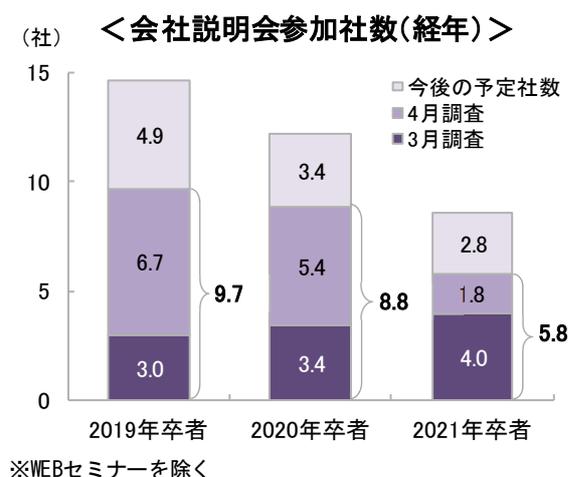


2. 会社説明会への参加・WEBセミナーの視聴状況

実際に足を運ぶ会社説明会（個別企業のセミナー）への参加状況とWEBセミナーの視聴状況について尋ねた。会社説明会の平均参加社数は5.8社。前年同期調査（8.8社）を3社下回った。3月調査時点では前年実績を上回っていたが、この1カ月の伸びは1.8社にとどまった。

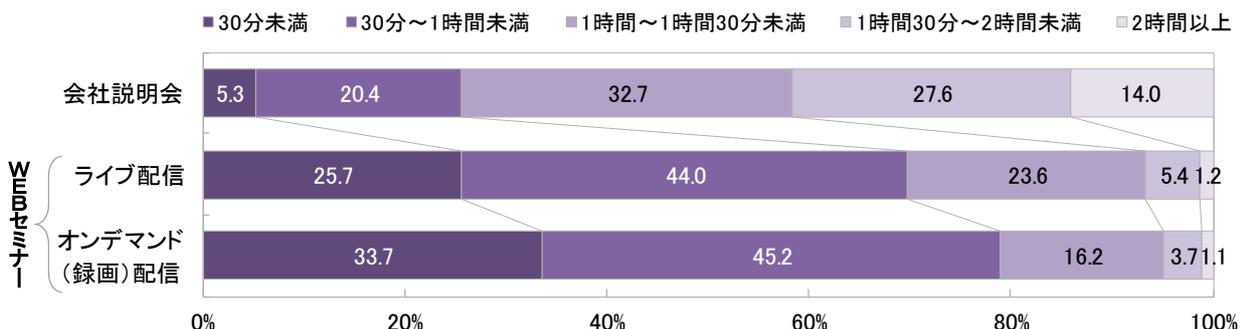
一方、WEBセミナーの視聴は大幅に伸びている。視聴経験率は8割を超えた（85.8%）。視聴した社数は、ライブ配信で平均6.7社、オンデマンド配信は4.8社と、例年にならぬ社数となった。

新型コロナウイルスの影響を受け、会社説明会がWEBセミナーに移行されたり、説明会自体が中止や延期になったりした影響が顕著に表れている。



実際に足を運んで参加する会社説明会と WEB セミナーとでは、学生から見てどのような違いがあるだろうか。今回、それぞれ適切だと思う所要時間について 30 分単位で回答してもらった。まず会社説明会では「1 時間～1 時間 30 分未満」が最多で (32.7%)、次いで「1 時間 30 分～2 時間未満」(27.6%) が続く。一方、WEB セミナーではライブ配信・オンデマンド配信ともに「30 分～1 時間未満」が最多で、次に多いのは「30 分未満」。1 時間未満を合計すると、ライブ配信で約 7 割 (計 69.7%)、オンデマンド配信で約 8 割 (計 78.9%) に上っており、実際に足を運んで参加する会社説明会に比べると、短時間での開催を求める学生が圧倒的に多いことがわかる。

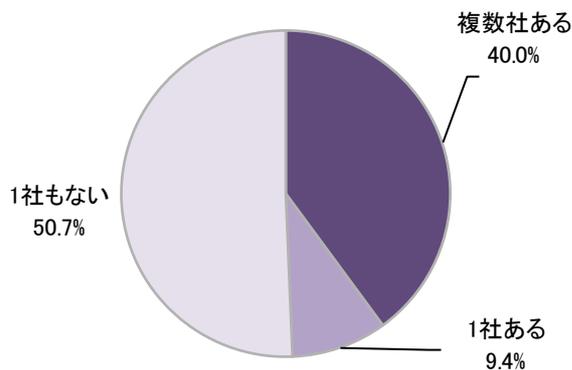
＜会社説明会の適切な所要時間＞



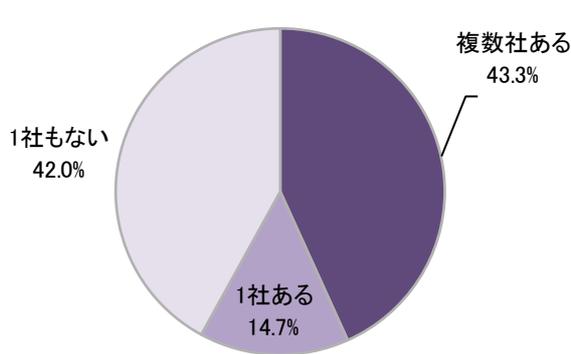
会社説明会がWEB形式に変更されたことで、参加予定だった企業のセミナーを視聴しなかった経験があるかを尋ねた。「複数社ある」(40.0%)、「1社ある」(9.4%) を合わせると半数近い学生が、セミナー視聴をやめた経験を持つことがわかる (計49.4%)。

反対に、参加予定ではなかったがWEB形式に変更されたことで視聴することにした経験がある学生は、「複数社ある」(43.3%)、「1社ある」を合わせて約6割に上る (計58.0%)。合同企業説明会などが制限される中、新たな企業探し的手段としても活用されている様子がうかがえる。

＜WEB形式に変更されたことで
視聴をやめた経験＞



＜WEB形式に変更されたことで
新たに視聴した経験＞



■視聴をやめた／視聴した経験

- 説明会に行く予定だったが、WEB になり予定が合わなくなって受ける気がなくなってしまった。 <文系男子>
- WEB 説明会を見る気持ちが高まらなくなり、ES を出さなかった企業がある。 <文系女子>
- 遠方に時間・費用をかけてまでは行かなかったが、WEB で気軽に見られて興味がわいた。 <文系男子>
- 実際に足を運ぶほどの興味はなかったが、WEB 説明会を通してエントリーに至った企業がある。 <文系女子>

* 巻末にコメント集「WEBセミナーのよかった例、悪かった例」を掲載

3. 選考試験の受験状況

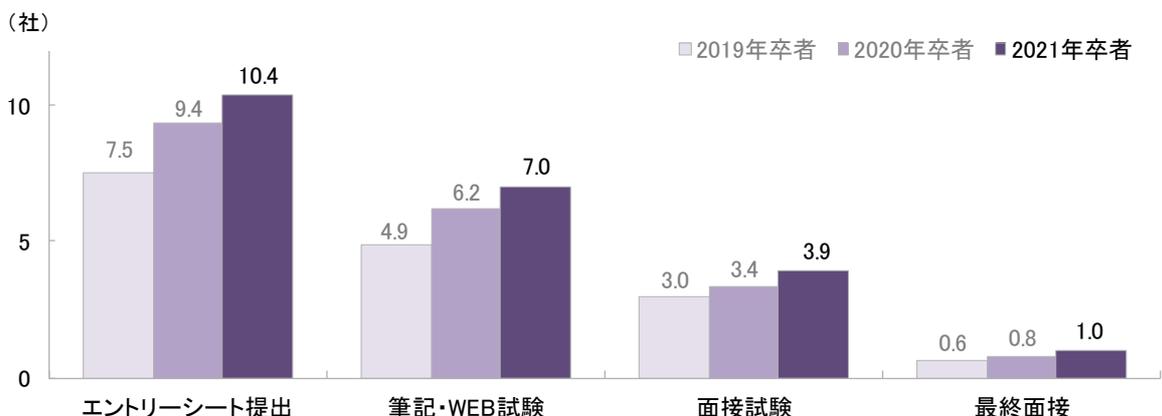
選考試験の受験状況を見てみよう。エントリーシート (ES) の提出経験率は 90.2% で、前年同水準だが、提出社数の平均は 10.4 社と、前年同期 (9.4 社) を上回る。エントリー社数が減っているのは対照的だが、提出のタイミングは年々早まる傾向にあるため、今後は提出のペースが鈍くなることも予想される。

面接試験の経験率は、選考解禁 2 カ月前にして早くも 8 割に達した (80.5%)。前年同期から 4.3 ポイント増。面接受験社数も前年平均 3.4 社から 3.9 社へと増加した。最終面接の経験率は 46.9% と、半数近い学生がすでに最終面接の受験経験を持つ。前年調査 (36.6%) より 10 ポイント増と大幅に増加した。インターンシップ参加企業の早期選考の増加などから、学生が選考を受け始めるタイミングが早まっていることがうかがえる。

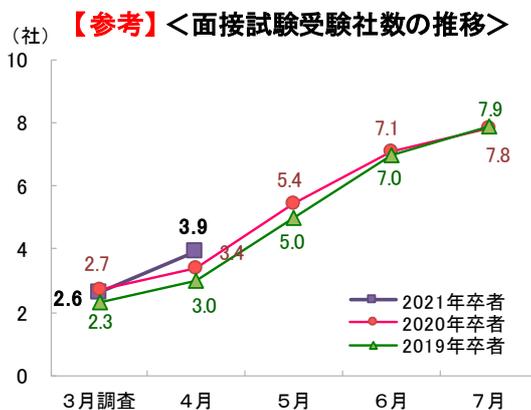
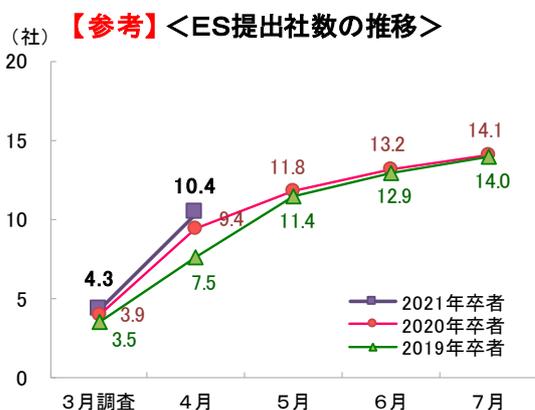
<選考試験の受験状況>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート	90.2	91.2	88.9	93.0	89.2	89.0
筆記・WEB試験	87.2	90.1	85.3	89.1	87.5	86.9
面接試験	80.5	76.2	79.1	82.9	79.5	80.7
最終面接	46.9	36.6	42.1	46.1	51.4	51.7

<選考試験の受験社数>



※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出



4. 4月1日現在の内定状況

4月1日の調査時点で内定を得ている学生は全体の34.7%。先月(3月1日)の15.9%から1カ月間で18.8ポイント増と、急激な伸びを見せた。前年同期(26.4%)を8.3ポイント上回る高水準だ。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、就職活動の停滞が懸念されているが、現状ではむしろ前年以上に早いペースで内定を獲得している様子が見て取れる。

内定を得た企業の7割近く(67.0%)がインターンシップに参加した企業(グラフは次ページに掲載)。イベント自粛要請で説明会の開催が制限される中、インターンシップなどで早期に接触していた学生の囲い込みが進んだと見られる。ただ、感染拡大の収束が見えない中で、今後内定率がどのように変化するかは不透明だ。

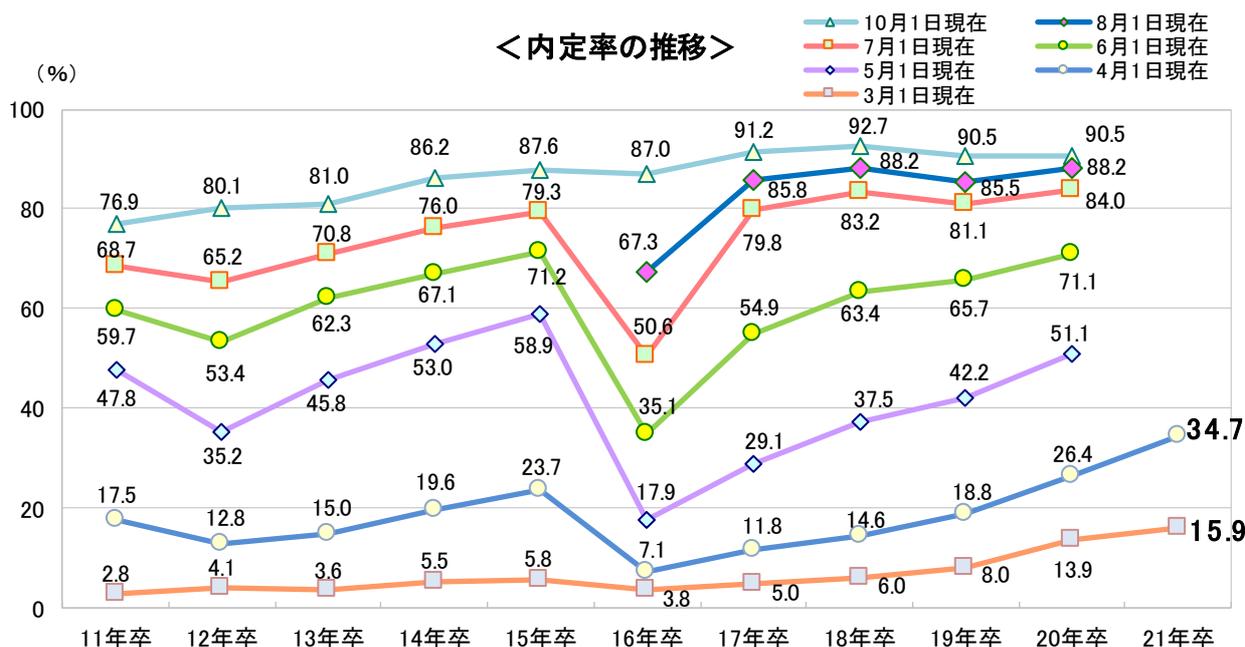
内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは26.2%。内定取得後も7割(68.3%)は就職活動を続けていると回答した。

<4月1日現在の内定状況> *「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		34.7 (26.4)	27.6 (21.2)	33.7 (26.9)	39.8 (30.5)	45.5 (30.8)
内定なし		65.3 (73.6)	72.4 (78.8)	66.3 (73.1)	60.2 (69.5)	54.5 (69.2)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	26.2 (22.1)	17.4 (19.8)	21.5 (19.8)	31.4 (26.3)	39.4 (22.7)
	活動は終了したが複数内定保持	4.7 (2.4)	5.2 (3.5)	5.4 (1.0)	3.6 (2.0)	4.5 (4.5)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.9 (0.3)	1.7 (0.0)	0.8 (1.0)	0.7 (0.0)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	68.3 (75.2)	75.7 (76.7)	72.3 (78.2)	64.3 (71.7)	56.1 (72.7)

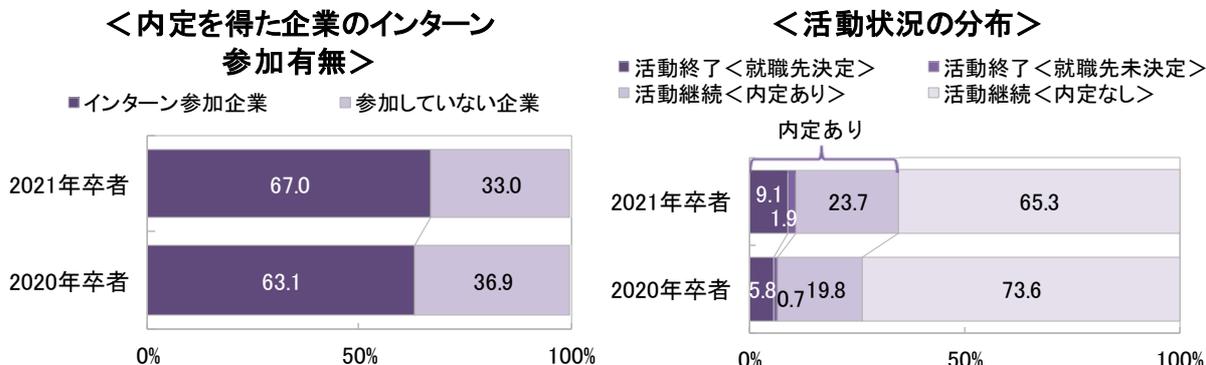
		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		1.4 (1.5)	1.5 (1.6)	1.3 (1.4)	1.5 (1.4)	1.5 (1.5)

※ () 内は前年(4月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~21卒は6月 ※15年卒以前は8月のデータはなし

モニター学生全体を分母にして活動状況の分布を見ると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は9.1%。複数内定を保留しているなど未決定である者(1.9%)を合わせても就活終了者は1割程度(計11.0%)。大半の学生にとって、これからが本番と言える。



5. 内定を得た企業の属性

4月1日現在で内定を得ている学生に、内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた(全40業界。複数回答あり)。「情報処理・ソフトウェア」が25.7%で最も多いが、次点の「調査・コンサルタント」(14.9%)より10ポイント以上高く、内定が集中している。文系理系ともに1位で文理問わず多くの内定が出ていることがわかる。全体の3位以下は「建設・住宅・不動産」(13.7%)、「情報・インターネットサービス」(10.6%)、「人材紹介・人材派遣」(7.3%)の順。

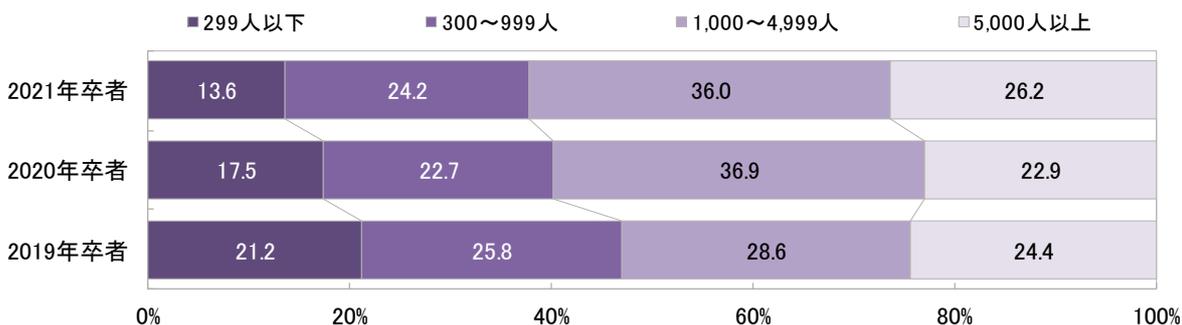
内定企業の従業員規模の比率を出してみると、最も多いのは「1,000人～4,999人」(36.0%)。ここに「5,000人以上」(26.2%)を合わせると62.2%となり、大手企業の内定が6割以上を占める。経団連が指針を取りやめたことで日程ルールの形骸化が進み、特に大企業において選考・内定出し時期の前倒しが進んだと見られる。

＜内定を得た業界（上位5業界）＞

全 体		文 系		理 系	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 25.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 27.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 23.3		
2	調査・コンサルタント 14.9	調査・コンサルタント 18.4	建設・住宅・不動産 20.4		
3	建設・住宅・不動産 13.7	情報・インターネットサービス 8.6	情報・インターネットサービス 13.1		
4	情報・インターネットサービス 10.6	建設・住宅・不動産 8.2	電子・電機 12.1		
5	人材紹介・人材派遣 7.3	その他サービス 8.2	調査・コンサルタント 10.7		

※「その他サービス」=セキュリティサービス、介護・福祉サービス、冠婚葬祭などのサービス業

＜内定を得た企業の従業員規模＞



6. 就職活動継続学生の動向

内定保持者を含め就職活動を継続している学生 (全体の 89.0%) の動向を確認したい。

現時点での志望業界を 40 業界の中から 5 つまで選んでももらったところ、最も多いのは「情報処理・ソフトウェア」(18.7%) で、「情報・インターネットサービス」(17.3%) が続く。序盤から引き続き IT 業界の人気は変わらず、とりわけ男子において顕著。以下は「水産・食品」(16.3%)、「銀行」(14.0%)、「電子・電機」(13.4%) と続く。

文理別に見ると、文系は「銀行」の順位が高く、男子で 2 位、女子では 1 位。理系は IT 以外ではメーカーが上位に多く、男子は 2 位「電子・電機」、4 位「自動車・輸送用機器」など。理系女子は「水産・食品」「医薬品・化粧品」に人気集中している。

<就職活動継続者の志望業界 (上位 10 業界) >

※5 つまで選択 (%)

	全 体		文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ①	18.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	19.3	銀行	20.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	26.6	水産・食品	32.7
2	情報・インターネットサービス ④	17.3	銀行	19.0	マスコミ	20.4	電子・電機	26.2	医薬品・医療関連・化粧品	26.4
3	水産・食品 ②	16.3	情報・インターネットサービス	17.5	水産・食品	14.7	情報・インターネットサービス	22.0	素材・化学	18.2
4	銀行 ⑦	14.0	商社 (総合)	13.5	商社 (専門)	14.7	自動車・輸送用機器	19.5	建設・住宅・不動産	15.5
5	電子・電機 ⑥	13.4	運輸・倉庫	13.5	情報・インターネットサービス	14.4	素材・化学	18.8	官公庁・団体	14.5
6	素材・化学 ③	13.2	調査・コンサルタント	13.5	官公庁・団体	14.1	医薬品・医療関連・化粧品	17.0	情報・インターネットサービス	12.7
7	医薬品・医療関連・化粧品 ⑦	12.5	水産・食品	12.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.4	水産・食品	15.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.8
8	官公庁・団体 ⑩	11.4	建設・住宅・不動産	11.7	商社 (総合)	13.4	精密機器・医療用機器	15.2	商社 (総合)	9.1
9	マスコミ	11.2	素材・化学	11.0	運輸・倉庫	13.4	機械・プラントエンジニアリング	14.2	OA 機器・家具・スポーツ・玩具他	9.1
10	建設・住宅・不動産 ⑤	11.0	官公庁・団体	11.0	保険	12.5	通信関連	11.0	マスコミ	8.2
	自動車・輸送用機器	11.0								

※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

今後、就職活動をどのように進めていくかという方針・戦略を尋ねた。最も多かったのは「これまでに興味をもった企業 (エントリーした企業) を中心に活動する」(36.8%) だが、割合は減少。代わりに「現在選考が進んでいる企業に絞って活動」(18.9%) と「志望度の高い企業に絞って活動」(16.7%) がそれぞれ増加。コロナの影響で選考の見通しが立たない企業もある中で、早い段階で選考が進んでいた企業や、既に志望度が十分に高まっている企業に注力する動きに結び付いているのだろう。

<今後の就職活動の方針・戦略>

- 新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒企業を広げていく
- これまで興味をもった企業 (エントリーした企業) を中心に活動する
- 現在選考が進んでいる企業に絞って活動する
- 志望度の高い企業に絞って活動する

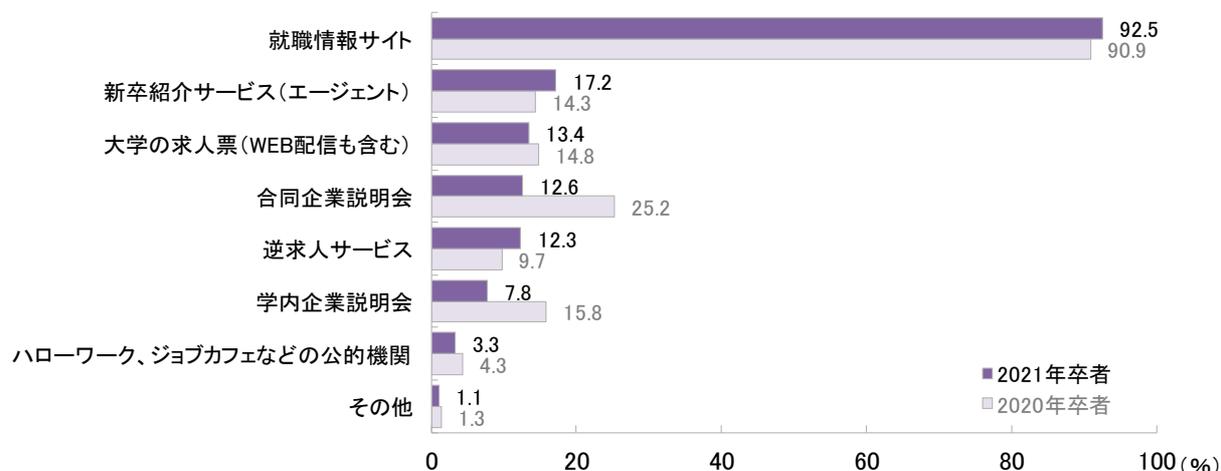


※各年4月調査

就職活動継続学生のうち、今後のエントリー予定社数を 1 社以上と回答した学生に、新たな企業を探す手段（ツール）を尋ねた。「就職情報サイト」が 9 割を超え圧倒的に高く（92.5%）、「新卒紹介サービス」（17.2%）がここに続く。前年調査で 2 位、3 位だった「合同企業説明会」「学内企業説明会」は再開の見通しが不透明な中、ポイントを下げた。

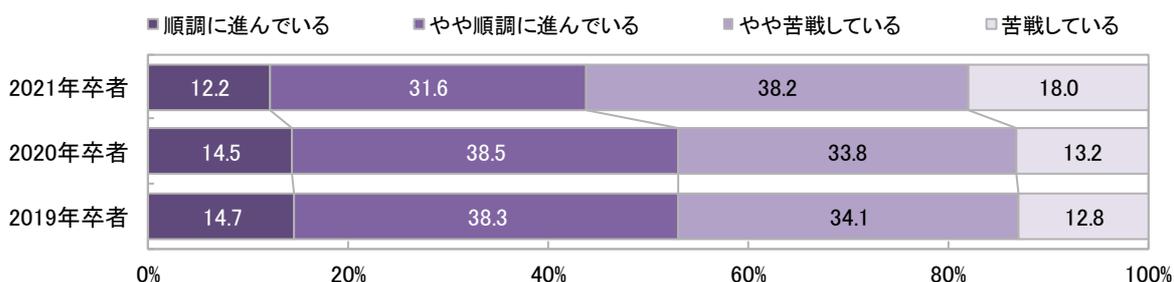
	全体	(2020年卒者)	(2019年卒者)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	6.2	6.2	4.8	7.2	6.6	4.7	5.3
今後のエントリー予定社数	4.6	4.5	5.6	6.2	4.7	2.8	4.1
今後の会社説明会参加予定社数	2.8	3.4	4.9	3.6	3.3	1.4	2.3
今後のエントリーシート提出予定社数	4.6	-	-	5.5	5.9	2.4	3.6

<新たな企業を探す手段>



自身の就職活動について「順調」「やや順調」と回答した学生は合わせて 43.8%。前年・前々年調査より約 10 ポイント減少し、「苦戦している」と感じる学生のほうが多数派となった（計 56.2%）。

<現時点での就職活動の進捗度合>



■「順調に進んでいる」と思う理由

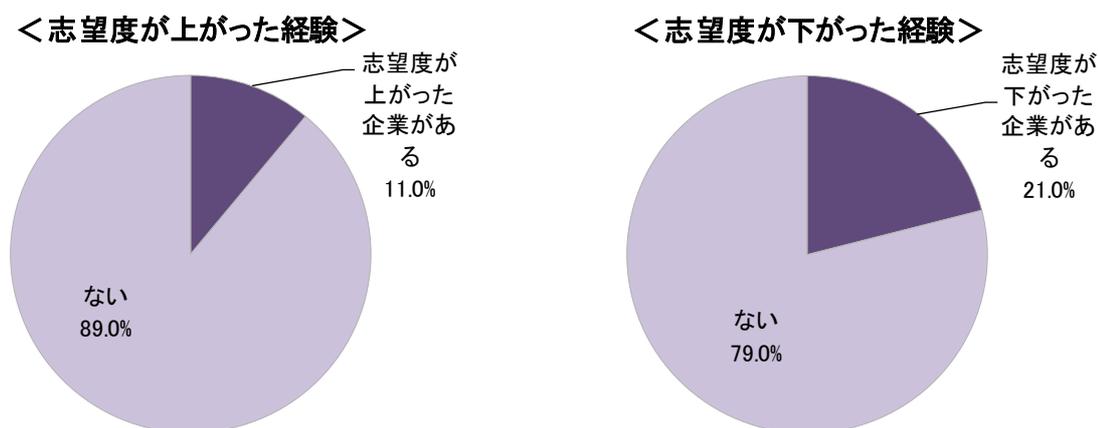
- 早期から動いていたため、内定もいただき、企業を絞って効率的に就活を進められているから。 <文系男子>
- コロナウイルスの影響で WEB 面接が増え、地方学生に有利になっていると感じるため。 <理系女子>
- まだエントリーシートで落ちたところはないから。 <理系男子>

■「苦戦している」と思う理由

- 学内セミナーや合同企業説明会がなくなってしまう、企業選びに難航しているから。 <文系男子>
- 選考延期が続き、就職活動の見通しが立たないから。 <文系女子>
- コロナウイルスの影響で本来の就職活動ができていない。 <理系女子>

7. 企業の新型コロナウイルス対策による志望度への影響

新型コロナウイルス感染拡大により、企業の採用活動は、スケジュール変更や感染防止策など様々な変更を余儀なくされている。こうした企業の対応が、志望度に影響を与えているのかを調査した。「志望度が上がった企業がある」と回答した学生は約 1 割 (11.0%)。反対に「志望度が下がった企業がある」は約 2 割 (21.0%)。具体的な理由コメントからは、感染防止への対応策の内容や、連絡の迅速さ、在宅勤務など社員の働き方の柔軟性などが、志望度に影響している様子がうかがえる。



■志望度に影響した理由

【志望度が上がった理由】

- 新型コロナウイルスの影響による予定変更のメールに、学生の健康を気遣う文言があったこと。 <文系男子>
- 選考において不安な中、迅速な対応をしてくれた企業は、やはり志望度にも影響が出ました。 <文系女子>
- 社員に在宅勤務を推奨しているかどうかで、その企業の働き方がわかったから。 <理系女子>

【志望度が下がった理由】

- 志望度の高い企業の対応が遅いと、その間に冷めてしまうことはありました。 <文系男子>
- この状況で直接面談をする企業は、柔軟性がない古い体質であると感じ失望した。 <理系男子>
- 前日に急に面接が中止になったりすると印象が悪い。 <文系男子>
- WEB 面接になったが、通信状況が悪く 5 分しか面接をしられず、落とされた。最悪だった。 <理系女子>

■WEB セミナーのよかった例、悪かった例

【よかったもの】

- 社員の人のよさが動画でも伝わってきたため、この会社に入りたいと心の底から思えた。 <文系男子>
- 各回で職種を分けて詳しい説明がされていて、自分の興味がある職種について具体的に聞いた。 <理系男子>
- 管理職の方々の話を聞くという貴重な機会があり、質問の時間も十分に用意されていた。 <文系男子>
- 少人数での社員交流があったため。 <文系男子>
- 具体的な営業の仕方などを実演していてイメージができた。 <理系男子>
- 常にコメント欄を意識して話を進めてくださったので、質問しやすかった。 <文系女子>

【悪かったもの】

- ホームページにある内容を説明しているだけで、社員の働き方や志望動機などが分からなかった。 <理系女子>
- あらかじめ終了時間が伝えられていなかった。 <文系男子>
- 参加人数が多すぎて質問に対する回答が追い付いていなかった。 <理系男子>
- パワーポイントと同時に流れる音声、機械に読ませたもので唖然とした。 <文系女子>